

国際表現力開発推進センター



各種言語の翻訳・通訳、中小企業海外進出支援、外国語学習教材開発、講演・ワークショップ・セミナー等の企画立案・実施など、グローバル社会における日本人の表現力向上に資する多岐にわたる活動を行っています。

企業の海外進出を支援しています①

活動の概要

目的	個人団体を問わず、日本人の表現力および国際発信力の飛躍的向上に貢献すること
連携メンバー	一般社団法人「国際表現力開発推進センター」(http://www.iedc.or.jp) 代表理事 足立優美氏 / ICT担当顧問 見瀬百彦氏 / 理事 足立英輝氏 / メディアサポート部門アドバイザー 西原友樹氏 / 英語総合教育アドバイザー 鈴木順一氏 関西大学外国語学部教授 李春喜
活動地域	日本全国、アジア、北米、ヨーロッパ
活動期間	2015年10月～(継続中)
費用	設立メンバーの自己資金 / 翻訳や企業海外進出支援から得る報酬 / 特別講演開催からの収益

連携の経緯

社団法人の設立メンバーが、語学教育における広い意味での「専門家」であり、法人設立以前からさまざまな仕事をお互いに協力し合ってきた。既存の教育現場でできることには限界があることを日常的に李が感じており、新しい形の外国語教育のあり方を模索していたところ、法人設立メンバーとして連携する話が持ち上がった。



企業の海外進出を支援しています②

表現力とは国境を越えて届ける力です(特別講演会にて)

解決すべき課題

- (1) 高度に専門的な知見を持つ者がいなかった
- (2) 独創的な発想のできる者がいなかった
- (3) アイデアを実行に移す場所がなかった
- (4) 同法人が実施する活動についてフィードバックが得られる場所がなかった

大学の役割

連携先である社団法人が開発した教材を、大学という現実の教育現場で使用してみることによって、大学は連携先に対してフィードバックを提供することができる。外国語による表現は、伝統的な語学教育分野にとどまらず、さまざまな分野の専門家から横断的に幅広く知見を集める必要があり、その実現のためには、大学以上に相応しい機関はない。また、同法人は、既存の外国語教育にはなかったような教材の開発に取り組んでおり、その意味においても、さまざまな分野の専門家集団である大学が果たす役割は大きい。

将来的には、次世代型教材の開発も視野に入れており、特許の申請も含めたさまざまな支援が大学に期待できるのではないかと考えている。

成果

- (1) 海外進出のための企業パンフレットやホームページ等の英語、フランス語、中国語、タイ語、ベトナム語、その他各言語への翻訳
- (2) 研究者の日本語論文の英語への全訳
- (3) 研究者のために英書の日本語による要約を提供
- (4) 商工会議所を通して企業の海外進出を支援
- (5) 特別講演会の企画・開催

今後の展望

- (1) 同法人との連携を活かして、個人団体を問わず表現力および国際発信力を向上する
- (2) 個人団体を問わず、同法人が蓄積してきたノウハウを提供する
- (3) 講演・ワークショップ・セミナー等を開催する
- (4) 次世代型教材を開発し、特許を申請する
- (5) 開発した教材を、個人団体を問わず販売する

研究者の紹介



外国語学部 教授
李 春喜
(り はるき)

社会人としてほぼすべての時間を英語の教師として過ごしてきたが、記号表現一般に関心がある。現在は、記号論から派生した物語理論をもとに、英日の翻訳、特に小説の翻訳に関心を持っている。

現場の声



・足立優美氏(同法人代表理事)

李先生からサービスに関する提案をいただくおかげで、メンバー内から新しいプロジェクトを意欲的に立ち上げようという空気が沸き起こっています。



・西原友樹氏
(同法人メディアサポート部門
アドバイザー)

開発したシステムやアプリを実際の教育現場で使用してもらえるため、生の声をフィードバックできるのは今後の開発にとっても非常にありがたく思います。